

2024年度チャレンジ講座(第10回)を実施しました

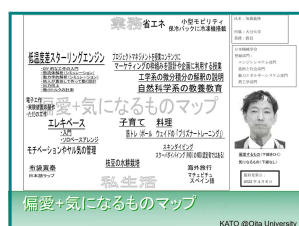
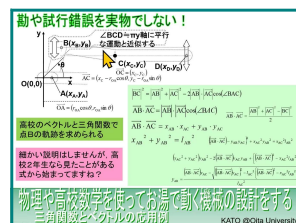
10月30日(水曜日)、第10回チャレンジ講座を実施しました。今回は理工学部の加藤義隆先生に「高校の勉強は何に使う? プリンと低温熱源利用技術で紹介します」と題して講義をしていただきました。

まずは先生の自己紹介を兼ねて、大学では何が学べるのか、何が研究できるのかというお話をされました。さらに、自分の専門に興味があって進学する人は少数派であること等、普段の高校の進路指導では聞けない貴重なお話がありました。また、卒業研究で希望のテーマに取り組みなかったこと、好きなことを追いすぎて普通の就職がなくなったこと、入試の難易度で異なるのは学ぶ専門科目ではなく入学後の友人の個性であること等々、進路選択に悩む高校生にとって興味深い話が続きました。



次に、スターリングエンジンの紹介がありました。小学生にも作れる実験装置の話を通じて、機械工学では実物で試行錯誤することは少なく、シミュレーションを行って作る前の確認や現象の推定をすることが大事であり、設計に力を入れていることをお話になりました。その際、高校で学習する三角関数とベクトルの知識が応用されているとのことでした。

また、キャラメルソースの作り方と物理・化学との関わりについての説明があり、脱水反応やキャラメル化反応、水の蒸発後の大きさなど、いくつかのQ & Aを参加者と交わしたのち、「理屈を理解することでモノの作り方が変わる」というお話をされました。



最後に、自分の好きなこと、やっていることが仕事に関わってくるといふ、「偏愛+気になるものマップ」の紹介をして、講義を終えられました。

※今回の記事(講義概要)は、臼杵高校が担当しました。

今回のチャレンジ講座に、20校191名の高校生が参加しました。感想の一部を紹介します。

○実例があったことで高校の学習内容が大学での学びにつながることでよく理解できました。

○スターリングエンジンについてもっと知りたいです。また大学入学後についての話もあって具体的に想像しやすかったです。

○大学の立地で研究や交流のしやすさが変わるという話を聞いて、大学調べであまり考えていなかったのでもう考えてから選ぼうと思いました。他にも大学に入ったあと、自分の行動が本当に大事だということがわかりました。本日はありがとうございました。

